

高浜4号機（写真左から3号機、4号機）
に向け、抗議のシュプレヒコール



10月16日

高浜原発4号機再稼働に抗議

10月16日、高浜4号機が再稼働した。
福井県内や近県からの有志が老朽原発うごかすな! 実行

委員会の呼びかけに呼応参集し、それぞれに思いの丈をマイクに託してアピール。「私は原発が大っ嫌い」と言っている。御門主を戴く浄土真宗出雲路派の門徒であることを誇りに思う拙も、当日朝一の仕事をこなした後は休めることが出来そうだと前日に分かると、居ても立っても居られず音海のチヌバナード共に駆け付けた。

関西電力は、9月福井県議会冒頭の全員協議会に於いて、使用済み核燃料の県外搬出への不転の覚悟を示すためとして、県外搬出が見通せなくなつた時点で、乾式貯蔵からプールへ戻すと発言して

立地町議会の反発を招いた。では何故立地町は反発したのか? それは電力会社や国によるキャスク安全神話にはまり込んでいるからに他ならないのだが、ここではキャスクは危険だとかプールが安全だとか言うつもりはない。

問題は貯蔵プールが満杯になつて、原発稼働が停まるのを防ぐため詭弁を弄してサイト内乾式貯蔵を進めようとしていることだ。充分に冷えた使用済み核燃料を金属キャスクに入れて乾式貯蔵する事によりプールに空き容量が出来、そこに熱々のホットな使用済み核燃料を入れ続けられる事で、地震等何らかの不具合発生によりプール内の冷却機能が失われた時、崩壊熱で冷え切っていない使用済み核燃料は溶融に向かってしまう。さらに恐ろしいのは高浜4号機及び3号機ではMOX燃料を使用している事だ。

MOX燃料は若狭ネット資

老朽原発
うごかすな!
ニュース

第152号

発行・老朽原発うごかすな!
実行委員会

【連絡先】
090-1965-7102

抗議の横断幕（10/16現場）



「もう再稼働するな!」
「そのまま廃炉!」

関電は福井県内で7基の原発を再稼働している。恐ろしいことにその内5基は稼働か

料室長の大阪府立大学名誉教授長沢啓行先生によれば、崩壊熱が発生しない人肌温度に迄冷却するには90年かかるらしく、規制委員会が認可した60年プラス停止期間で寿命が来たとしても、そこから

さらに90年冷やし続けなければならぬ。
つまり100年以上も溶融事故の恐怖にさらされ続ける事になり、未来世代に申し訳ない気持ちでいっぺいだ。
(越前市 酒田雅人)

ら40年超えの老朽原発だ。稼働すれば定期点検が必須で、定期検査のたびに原子炉を止め作業し、点検で異常が無ければ原子炉は起動する。

高浜原発4号機は6/18から実施されていた定期点検で蒸気発生器伝熱管に損傷が見つかり、当初9月下旬予定の再稼働がずれ込んだ。関電は安全性に問題ないとしているが、蒸気発生器の交換を来年に予定している中でのトラブル多発。危ない綱渡りだ。苛酷事故への不安が募る。

再稼働の都度、私たち市民はマイカーを融通・調達し声を掛け合つて分乗、手作りおにぎりを車内で頬張

**原発つづけるための
乾式貯蔵NO!**

全国集会@高浜

2025. **11/30日**

集会 13:00~14:30
集会後デモ ~16:00解散

高浜町文化会館 (福井県高浜町)

主催: 老朽原発うごかすな! 実行委員会

使用済核燃料の
行き場はない

り時間を節約し、びわ湖のほとり大津から約2時間かけて若狭現地に駆けつけ続けている。(最近8/14の大飯原発再稼働抗議)

アジア初の原発ゼロ!

台湾民衆の闘いに励まされ

10/11(土)、さいなら原発・びわこネットワーク秋の講演会に参加した。講師の1人は佐藤大介さん(ノーニークスアジアフォーラム日本事務局)で、台湾民衆の闘いの実態をたくさん写真(日本のメディアが伝えていないのか、初めて目にするものばかり。例えば2014年3月の13万人デモでの1万人の交差点デモの空中撮影写真は壮観だ。)を私たちに示しながら、民進党(反原発)と民衆党・国民党(原発推進)の攻防、そして今年5月17日第三原発2号機が閉鎖され原発ゼロの歴史的な日になったことの報告があり、台湾の人々の闘いの姿に大きく励まされた。迷っていた16日の抗議行動への参加決意ができた。

もう一つの講演、「若狭の原発を巡る情勢と自然エネルギーへの道」木原壮林さんの講演も迫力あるものだった。

一人一人の熱意 想いが大切

高浜原発北ゲート前には22人の市民が駆けつけ、参加者全員がマイク

事故が続く高浜原発 関電の管理態勢の問題

10月16日に起動した高浜4号機では定期点検中

怒りの抗議を、たたきつけた



を持ち、それぞれ自分の想いをアピールした。台湾の人々、年金暮らしの市民、名もない・まっとうな考えの普通の市民が参加する活動の底力を強く感じた。

(脱原発市民ウォーク

in 滋賀呼びかけ人

岡田 啓子)

の7月21日に原子炉補助建屋で、設置していた足場の解体作業中の作業員が転倒する事故がありました。その人は胸を強く打って肋骨が折れ、骨が肺に刺さるという重傷でした。

4月30日にも3号機の定期点検中に、炉頂の燃料取換プールへ作業員が8メートルも転落するという事故があったばかりです。そのプール下部に5メートル深の水があるところへの転落だったので、転落死は免れ、またそのプール水はあまり放射能で汚染されていなかったもので被ばくは免れたようです。

高浜原発では2020年3月に1号、2号の特定重大事故等対処施設(いわゆるテロ対策特重)のトンネル内工事中にバックしてきた土砂搬出トラックにひかれて死亡するという事故がありました。また、この死亡事故前にも同じトンネル内工事中に溶接機の火花から火事になり、数人が酸欠状態で倒れ救急車で病院に運ばれるという事故も起こっています。

10・16闘いの現場に貼られた音海のチヌバナー



このような労働災害事故を起こす問題は昭和30年、40年代の管理体制です。例えば下請け、孫請けの会社作業員とはいえ、今どきの日本では考えられない事柄です。全ての責任は元請け、親会社(関西電力)の管理体制の問題です。この管理体制のゆるやかな会社で絶対事故を起こしてはならない原発を運転していること、それも40年、50年という老朽原発を動かしていることに身ぶるいがします。

いますぐ、全ての原発運転を停止してください。

(高浜町在住

東山幸弘)